



《チュートリアル》(日本地図学会定期大会)へのご参加のお誘い

今年度は、日本地図学会定期大会を従来の東京ではなく、仙台市で開催いたします。日本地図学会を日本全国へ展開するための第一歩と考えております。新しい企画として、初日、8月6日(水)の午後に、無料で参加できるチュートリアルを開催いたします。おもしろい、役に立つ内容ですので、皆様奮ってご参加ください。同時に開催している地図展は、大会期間中(8月6～8日)、3日間いつも無料で参加できます。また、2日目からの有料の大会へも是非ご参加ください。共催・後援団体の会員は、本学会の会員価格で参加できます。大会期間中は、仙台七夕まつりがすぐ近くで開催されております。晩からは市街へ繰り出し、伝統ある「たなばたさん」で癒されてください。

《チュートリアル、平成26年度日本地図学会定期大会》

時 間:2014年8月6日(水)13時00分 - 17時30分 (12時30分より受付開始)

場 所:東北大学 片平キャンパス 片平さくらホール 2階 会議室

(1階では、地図展を行っております)

参加費:無料(チュートリアル、地図展)

(2日目からの大会(8/7-8)への参加費は、普通会员は2000円です。資料集代を含みます。)

詳細は、以下のウェブからご確認ください。大会プログラムの詳細もご覧いただけます。)

ウェブ:<http://www.jmc.or.jp/gakkai/> (「大会・例会」を選択してください)

プログラム:

(13:00-14:00) 【講演と討論】

題目:『仙台市の中等教育における地図活用の学びが目指すもの』

講師:仙台市中学校社会科研究会、

- ・渡邊 誠(わたなべ まこと) [仙台市立大沢中学校 校長、
仙台市中学校生徒地図作品展 事務局長]
- ・進藤 千枝(しんどう ちえ) [仙台市立将監中学校 教諭]
- ・五十嵐 康洋(いがしら やすひろ) [仙台市立広瀬中学校 教諭]

概要:仙台市で毎年開催されている中学校生徒地図作品展は、平成25年度で第45回となる。開催回数は全国一であり、仙台市が地図教育に対して長年貢献していることがうかがえる。今回、その活動母体である仙台市中学校社会科研究会に所属する中学校の先生に、中等教育における地図活用の学びに関して実例も含めて、ねらいや知見などについてお話しいただく。

(14:00-14:10) 《休憩 10分》

(14:10-15:10) 【講 演】

題目:『国土地理院の地図の最新動向』

講師:鎌田 高造(かまだ こうぞう)〔国土地理院 基本図情報部長〕

概要:社会のデジタル化が進んで来ていることを受けて、国土地理院でも整備している地図の体系を大きく見直した。地形図はデジタルになり、ウェブサイトで他の地理空間情報と重ね合わせて眺めることが可能になった。また、GIS での利用に適したベクタ地図も販売を開始した。

ここでは、変わりゆく地図の体系の現状について、変化のきっかけや検討内容も含めて紹介するとともに、現行の地図が災害対応などの場面でどのように役に立っているかを分かりやすく紹介する。

(15:10-15:20) 《休憩 10 分》

(15:20-16:20) 【講 演】

題目:『Google のクラウドサービスを教育、防災、研究分野で応用』

講師:丸山 智康(まるやま ともやす)〔日本地図学会 評議員、法政大学 兼任講師〕

概要:3.11 以降、民間企業や行政の防災分野において、事業継続計画の一環として災害時であっても通常と同じく事業を継続できる安定した配信基盤の必要性に注目が集まっている。また、災害時に Gmail やカレンダーと言ったコンシューマサービスが稼働し続けていたのは周知の事実であり、毎分 100 時間以上の動画がアップロードされる Youtube や、一日に 10 億件以上の検索サービスなど、グーグルの安定したクラウド基盤がなければ成し得ない状況にある。

本発表では、グーグルのクラウドサービスを利用した地図ソリューションの教育、防災、研究分野での利活用について事例を交えて解説する。さらに、グーグルのクラウド基盤に関する最新動向やセキュリティの考え方についても概説したい。

(16:20-16:30) 《休憩 10 分》

(16:30-17:30) 【講 演】

題目:『地図に表現された地名－「危険地名」をどう考えるか』

講師:今尾 恵介(いまお けいすけ)〔地図研究家、フリーライター〕

概要:東日本大震災以来、いわゆる「災害地名」に注目が集まっている。たとえば、土砂崩れの多い土地や脆弱地盤に特有な地名を具体的に例示し、世間に注意を喚起するという形で情報が発信されるものであるが、諸説ある由来の中から「過去の津波を物語る地名」という説のみを取り上げて不安を煽る非科学的な言説も後を絶たない。

地名学は柳田國男をはじめとする先人たちが全国の事例を比較検討することにより築き上げられてきたが、当て字が多く起源の検討が困難な日本の地名の特性上、とかく「我田引水」となる傾向は戦前から指摘されてきた。これに加えて、特に近代以降の地名の領域変遷も難しい側面のひとつである。

「災害地名」として不安が煽られた結果、それらの地名を安易に変更しようとする動きも見られるようになった今、過去から現代へのメッセージとしての地名の正しい解釈と保存、そして「地名の正しい怖がり方」を、地形図で多数の事例を示しながら考えてみたい。

(以上)